

菊陽人りさーち



うえむら ひかり
上村 光麗さん (11歳)
[馬場楠]



よしだ あかり
吉田 朱里さん (7歳)
[馬場楠]

「菊陽人りさーち」に掲載を希望される人は、はがきに「氏名」「年齢」「住所」「連絡先(昼間)」を明記のうえ〒869-1192菊陽町役場総合政策課「菊陽人りさーち」係までお送りください。注)掲載対象は、小学生以上で菊陽町に居住している人に限ります。親子、祖父母と孫など2人1組での掲載もできます。掲載が決まりましたら、こちらからご連絡させていただきます。

- 趣味 ソフトバンクホークスの応援
- 将来の夢 アナウンサー
- 自慢 嵐の相葉君のサインを持っている!
- 今一番やりたいこと ソフトバンクホークスの試合を見て、川崎選手に会いたい

- 将来の夢 ピアノの先生
- 自慢 早寝早起き
- 今一番やりたいこと いろいろなお料理を作ること
- みんなに伝えたいこと みんな仲良くしようね!

人権のひろば

子どもの目、子どもの声
人権
作文シリーズ
【No.12】

問い合わせ
人権教育・啓発課
☎232-2113

熊本菊陽学園での作業体験中、「聞き取りにくかったり、なんと話せばよいか分からなかったり」したことを、「表情や目を見たり、一生けんめい聞いたり」して相手が伝えようとしていることをしっかり受け止めていることがよく分かります。
*作業場面の写真撮影には、学園にご協力いただきました。

私がワークキャンプに参加したと思っただのは、以前老人ホームに行ったことがあって、その時、社会福祉に興味を持ちました。それが参加した大きなきっかけです。あともう一つ理由があります。それは、ハンディキャップのある方や、菊陽北小の人たちや施設の職員の方たちと仲良くなって、学校の思い出を作りたいと思って参加しました。

一日目の作業体験で、ねじを作る作業をしました。ねじを作る作業では、ねじを五山や三山など、目できちんと確かめないとならぬと、その製品は売り物にならなくたってしまおうし、ねじを回すのがかたかったりして、なかなか難しい作業でした。でも、入所者の方々は、パパッと作業を進めるのですごいなと思います。私は、入所者の方たちとお話をしながら、作業をしていくうちに、福祉の仕事って楽しいと思ったり、感じたりしました。



ねじどめ(バイクの部品づくり)

「ワークキャンプを通して学んだこと」
武蔵ヶ丘北小学校6年 花田なつみ

二日目は、春雨の計量とふくるづめ、ふくろとじをしました。春雨の計量は割りと簡単なのですが、作業されている方々は、プロのようにこなしていたのですごいと思います。ふくろづめは、はじめまちがってふくるづめしていましたが、それを教えてくれたのでうれしかったです。少しずれても、それはせいひんにはなりません。私はやっているうちに慣れたのですが、集中力を切らすとすぐずれてしまつたからです。だから交代で作業していただきました。

私は、熊本菊陽学園のみなさんと作業をして、聞き取りにくかったり、なんと話せばよいか分からなかったりするところもありました。たとえ話が聞き取りにくくても、表情や目を見たり、一生けんめい聞けば伝わると思ったし、なんて話せばよいか分からないときだつて、相手のほうから話しかけてきてくれたりして楽しく過ごせてとてもよかったです。そのおかげか私は将来、福祉の仕事につきたいと思いました。

ワークキャンプ二日目は、夕食会や



ていねいな袋づくり



将来、福祉の仕事につきたい!

きくよう文芸

菊陽句会報

六地藏三寒四温無表情 山茶花の終のいろして散るも花 浄瑠璃の三味の音に乗り雪女 若い家族も願ひあまたに春立ち 五里霧中老々介護の春寒し 積雪やうす墨流し今朝の景 春光や波おだやかや魚飛びて 手袋の五指にこもりし母の愛 細ごまと近況見ゆる賀状なる 生れたて赤き実二つ雪兎 狐犬の声も響けり山深く 冬の霧山と山とを繋いでる 寒カラス鳴き声大会はじめてる 一世紀生きし思ひや梅二月	坂本百合子 田中 郁子 村田 正三 井 子文 財津 早雪 原野レイ子 西村ひとえ カ 幸子 寺尾千代子 高橋 孝子 堀川 妙子 佐藤 航 佐藤 健 佐藤 節	着ぶくれて母そつくりと人の言ふ 侘助のうす紅透かす日和かな 寒満月言ひ訳などの許されじ おきな見のいやと首ふる冬帽子 ゆずり合ふ土橋のほとり草青む 劣りゆく頭脳によしと寒卵 白梅の一番に咲く隣り庭 ものの芽を育む雨よ音もなく 小春日の遍ねく大地のわらべうた 冬衣脱ぎ誘はれて植木市 日溜りの梅一輪の気負いかな 餅ついて母のなき日のはじまりぬ 冴返る虚空に消えし青い鳥 愛犬の片目眠や露の憂	吉野 早苗 川口 豊子 井上久美子 宮川ユキエ 日高 妙子 曾我 育代 曾我トモ子 紫藤 祥子 村上 朋子 合志 重子 野口 今史 松橋 強 佐藤 澄世 三島 一路
--	---	---	---

短歌会

海沿いの桜並木の枝先のつばみは固く風に震えぬ
早春の暖かき日に山裾を歩けば白梅仄かに香る
あの山の遙か遠くを帰りしか鶴を思へり暖かき日を
草引きし庭に舞い来し黄蝶二つ水仙の花にまつわりており
吾が里は神宮山の麓にて岩たご越えて舟繋ぎあり
白き雪黒き針葉樹を背景に赤きウエアの選手は飛び
幼な日に指切り約束したもののが定めし山里へ行く

今村 貞子
岡本まさえ
菊川あさみ
下田 久子
皆島キノ
森 敦子
東 廣喜